

SMBCグループの経営戦略

2021年9月14日



証券コード	8316
単元株数	100株
株価*	3,984円

* 2021年9月10日現在

本日のアジェンダ

I

With コロナの取組 ////////////////////////////////// 3

II

SMBCグループの特長・強み ////////////////////////////////// 6

III

SMBCグループの成長戦略 ////////////////////////////////// 12

IV

株主還元の強化 ////////////////////////////////// 24

V

ご案内 ////////////////////////////////// 27

ご参考資料 ////////////////////////////////// 29



I. Withコロナの取組



1. ステークホルダーの皆さまへの対応

SMBCグループは、With コロナの時代に対応したビジネスのあり方を追求しています

お客さま



- SMBCの国内全支店・ATMの営業を継続



- オンラインを活用した営業活動
(ウェブ面談、電子契約など)
- Afterコロナを見据えた情報提供・ディスカッション

bellFace



従業員



- テレワーク・スプリット運営の推進
- ワクチンの職域接種の実施
- 従業員個々の事情に応じた
特別休暇取得の推奨

地域・社会



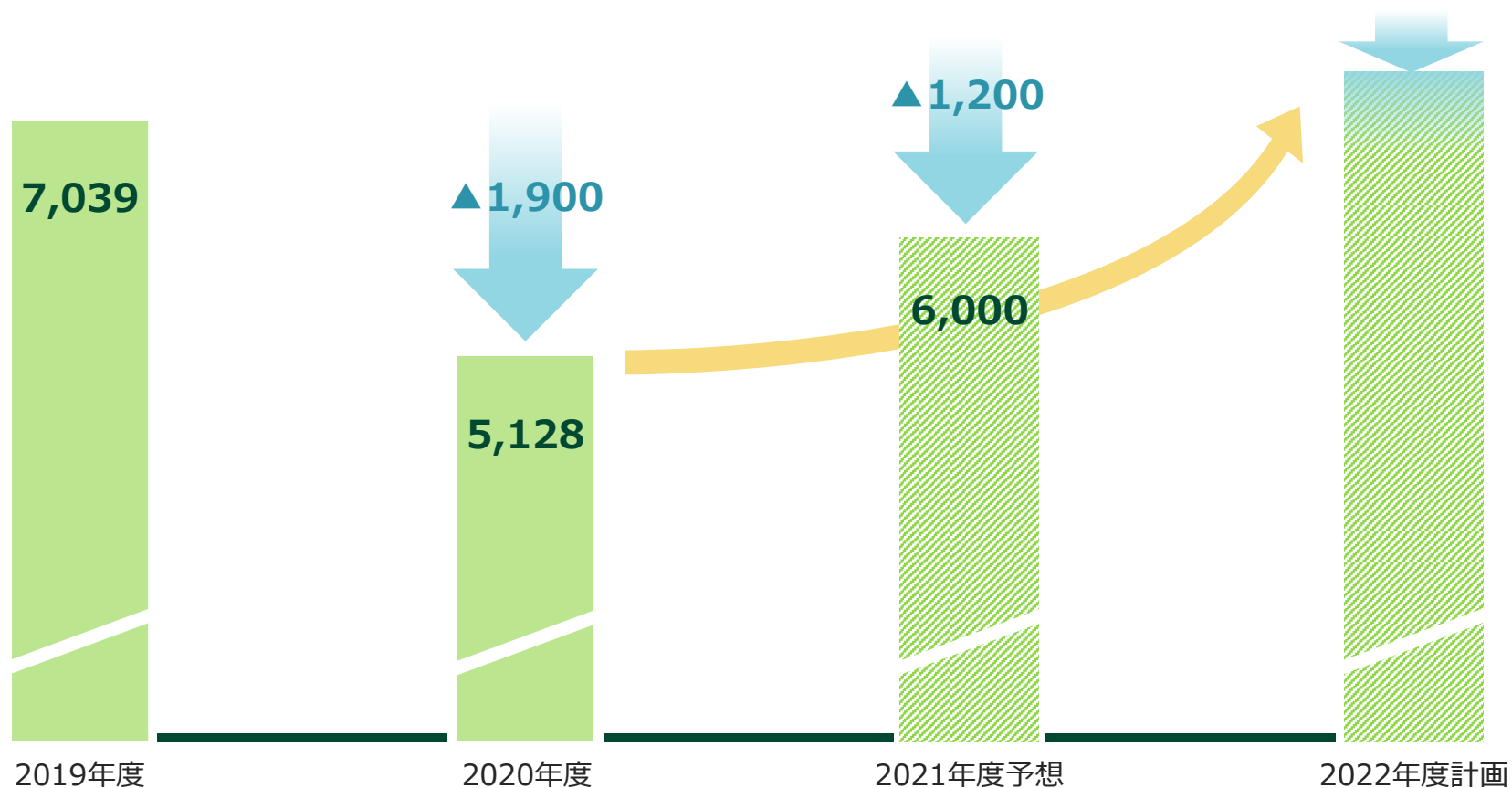
- 医療、教育・福祉、文化芸術活動
を支援（寄付総額15億円）

2. 業績影響

コロナによるマイナス影響は徐々に縮小し、2022年度には中期経営計画で想定した利益水準を回復する見込み

親会社株主純利益

(億円)



Ⅱ. SMBCグループの特長・強み



1. 圧倒的なグループ総合力

SMBCグループは、各業界トップクラスの企業で構成されています



三井住友銀行 (SMBC)



SMBC日興証券



三井住友カード



三井住友DS アセットマネジメント



SMBC信託銀行



三井住友 ファイナンス&リース



SMBCコンシューマー ファイナンス

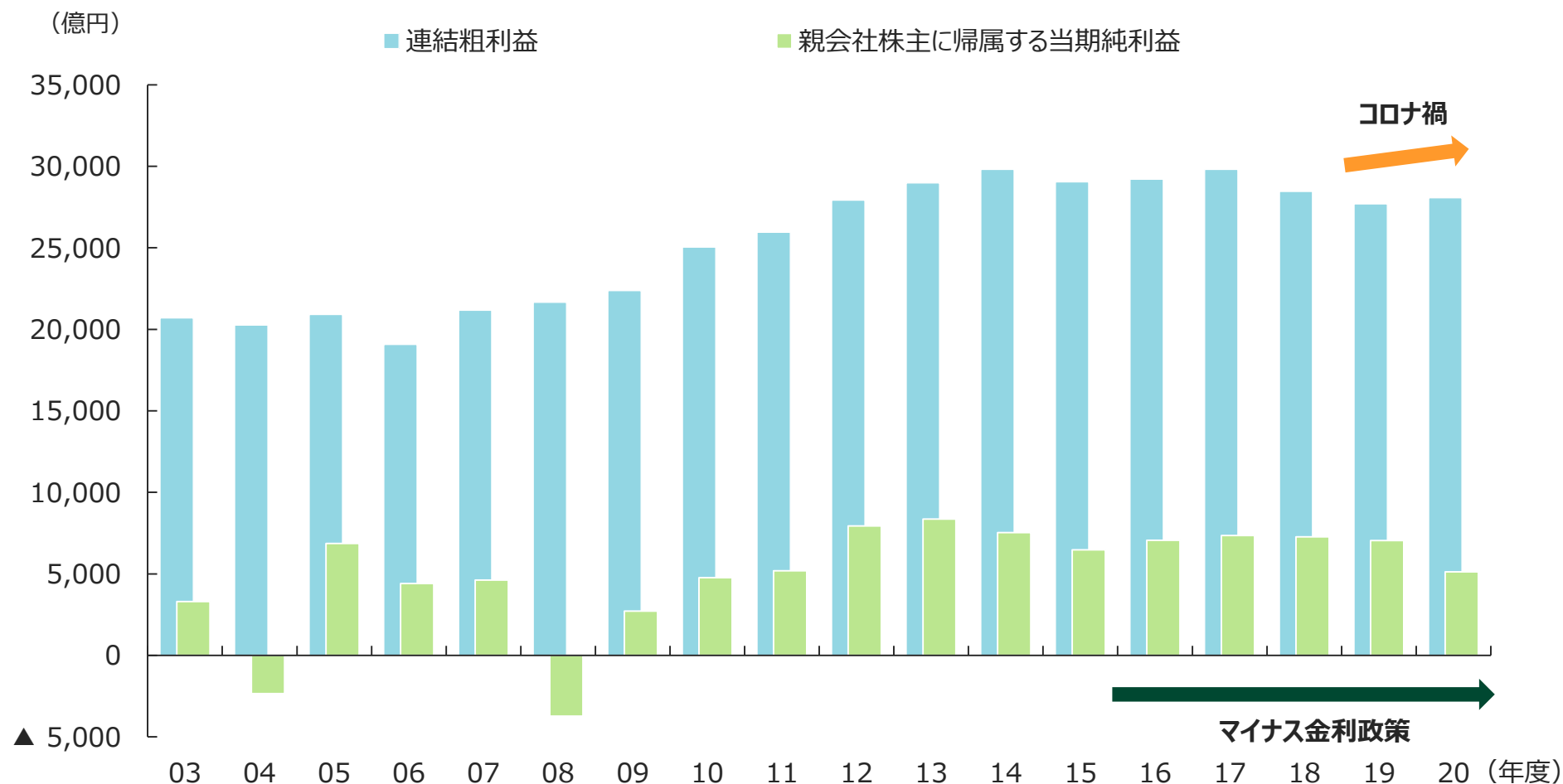


日本総合研究所



2. 安定した業績

マイナス金利政策やコロナ禍といった厳しい環境下でも、安定した収益を計上しています



3. 多様な収益源・効率性の高さ

グループの総合力を活かした収益源を多様化に努めつつ、世界的に見ても高い効率性を維持しています

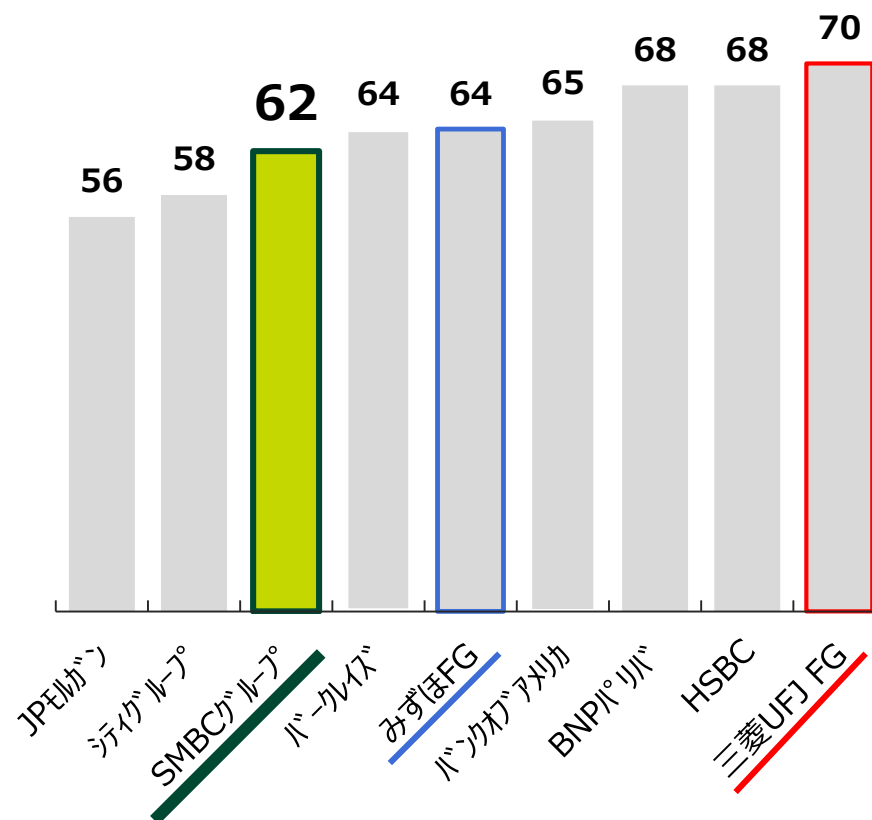


連結粗利益の内訳

	2002 年度	2020 年度
SMBC以外の グループ会社	18% 	38%
海外ビジネス (SMBC)	5% 	23%
国内貸出金・ 預金関連収益 (SMBC)	35% 	15%

経費率^{*1}

(%)



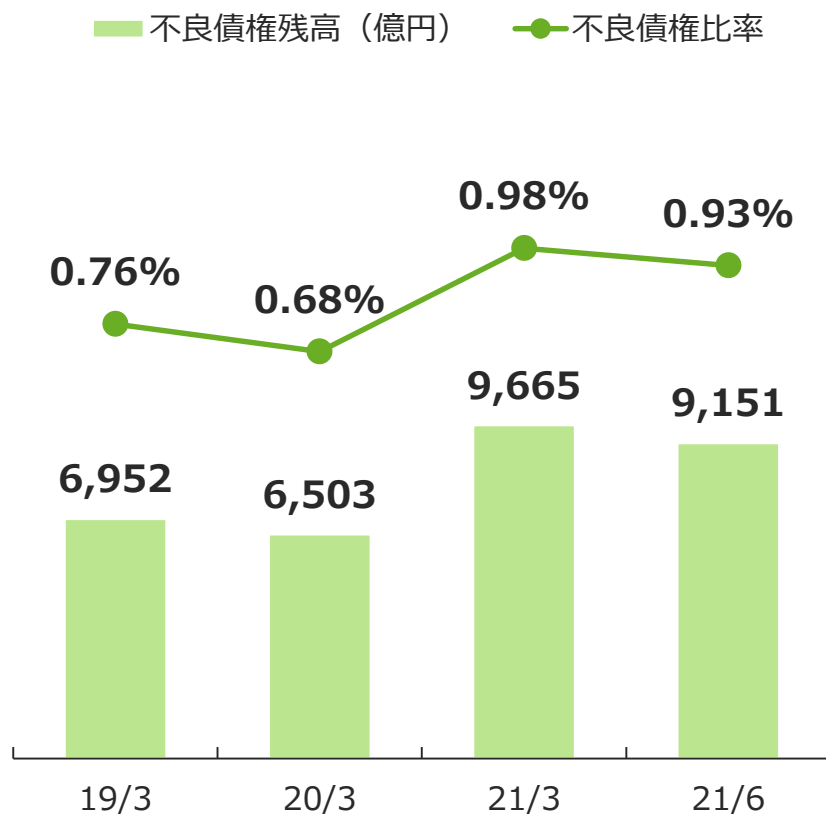
^{*1} 営業経費（邦銀は傘下銀行の臨時処理分を含む）をトップライン収益（保険契約に基づく保険金及び給付金純額を除く）で除いたもの。SMBCグループ、三菱UFJ FG、みずほFGは20年度実績、その他は20年1月-12月実績。

4. 質の高い資産・健全な資本基盤

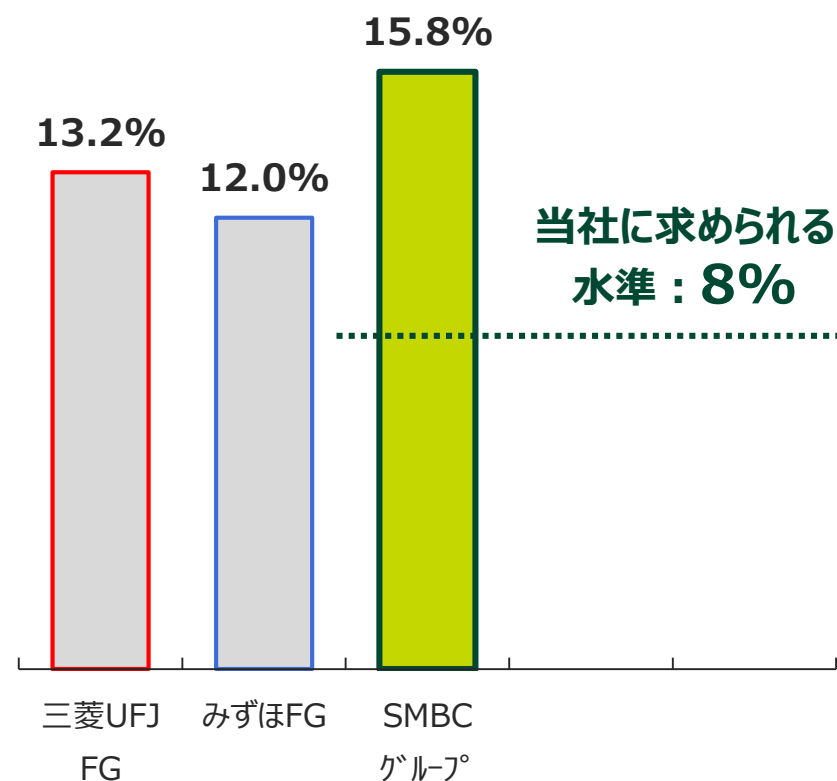
低水準の不良債権比率、十分な自己資本を維持しています



不良債権残高・比率



普通株式等Tier1比率（完全実施基準）^{*1}



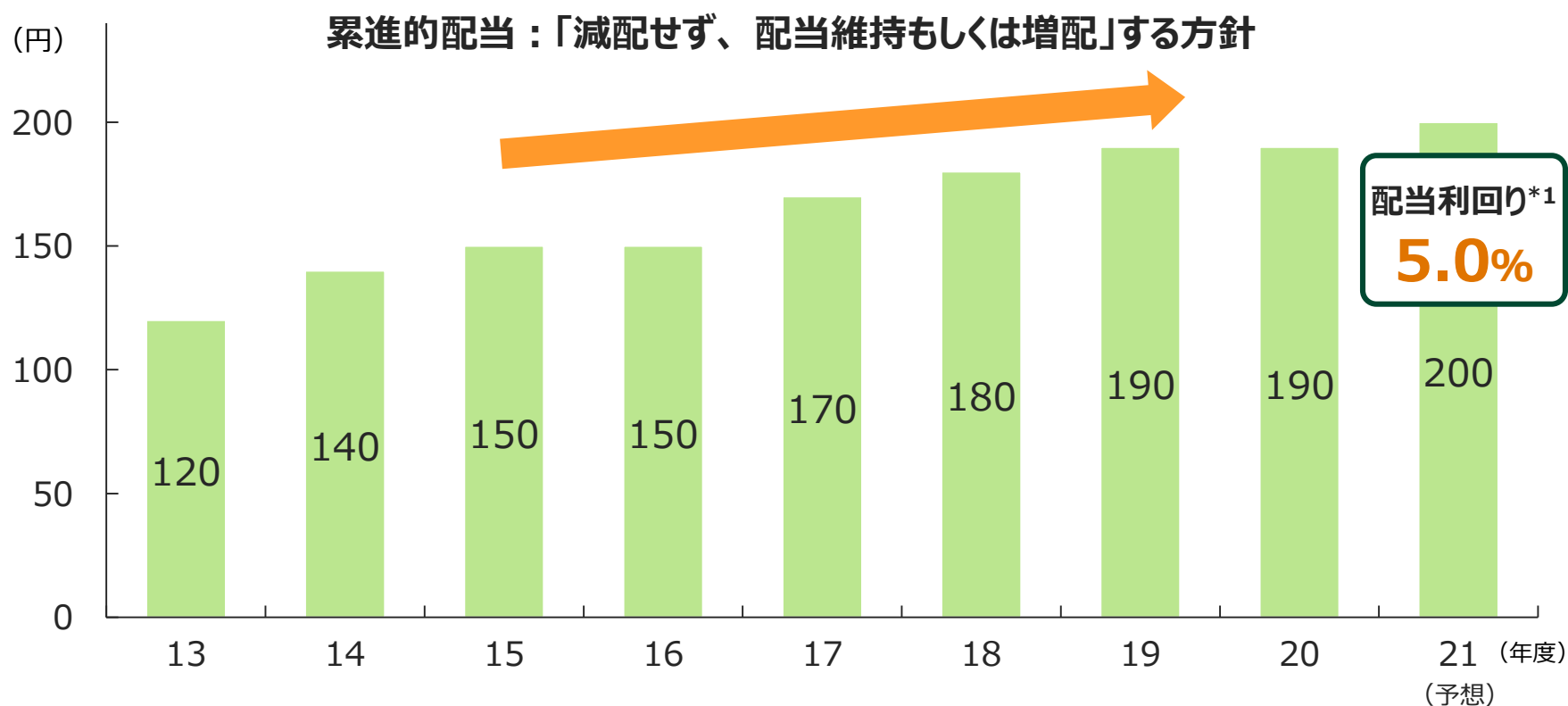
^{*1} 21年6月末時点

5. 累進的に配当を増加

コロナ影響下においても 2020年度：据置 2021年度：増配を実現しています



1株当たり配当



配当性向*2

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21 (年度 予想)
配当性向*2	20%	26%	33%	30%	33%	35%	37%	51%	46%

Ⅲ. SMBCグループの成長戦略



1. 私たちを取り巻く環境

新型コロナウイルス以前から、金融業界は厳しい業務環境に直面

超低金利の長期化
・グローバル化

地政学リスクの
高まり

金融ニーズの
高度化・多様化

異業種の参入・
競争環境の激化

DI/DXの進展

気候変動への
対応

就業観の変化・
働き方改革

新型コロナウイルス
感染症

ビジネスモデルも絶えざる進化が必要

2. 私たちの目指す姿

中長期ビジョン

最高の信頼を通じて、お客さま・社会とともに発展する
グローバルソリューションプロバイダー

3つの方向性

1 情報産業化

2 プラットフォーマー

3 ソリューションプロバイダー

新中期経営計画

基本方針

事業戦略

Transformation

既存ビジネスのモデル改革

Growth

新たなビジネス領域への挑戦

経営基盤

Quality

あらゆる面での質の向上

3. 重点戦略 ①個人のお客さま向けビジネス -資産運用-

店頭と変わらない幅広い資産運用取引をホームページ・アプリ上で提供

ロボアドバイザーによる運用商品の提案・アプリ連動



デザイナーが全体を設計



ホームページ



SMBCダイレクト・アプリ



3. 重点戦略 ①個人のお客さま向けビジネス -キャッシュレス決済-

事業者、利用者双方の利便性を向上し、キャッシュレス決済ビジネスを推進

事業者のキャッシュレス化をサポート

 Square



stera

GMOペイメント・ゲートウェイ社、
VISA社と連携



利用者の多様な商品ニーズへ対応

番号非表示のナンバーレスカード



カード番号は
アプリで管理



Vポイントアプリ



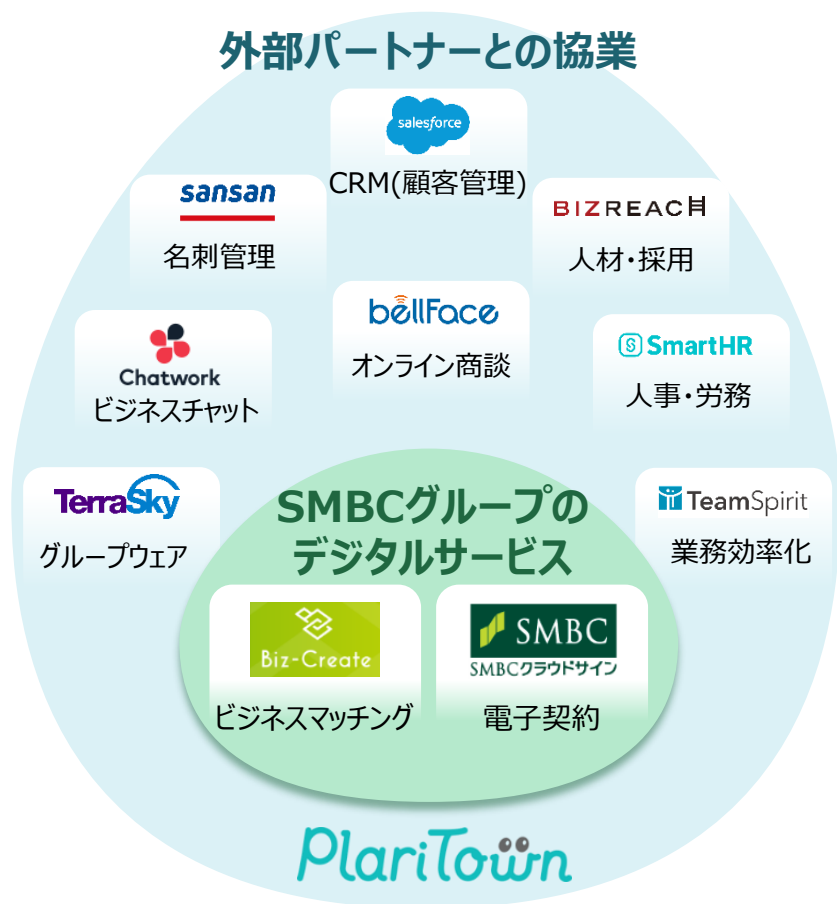
VISAのタッチ決済



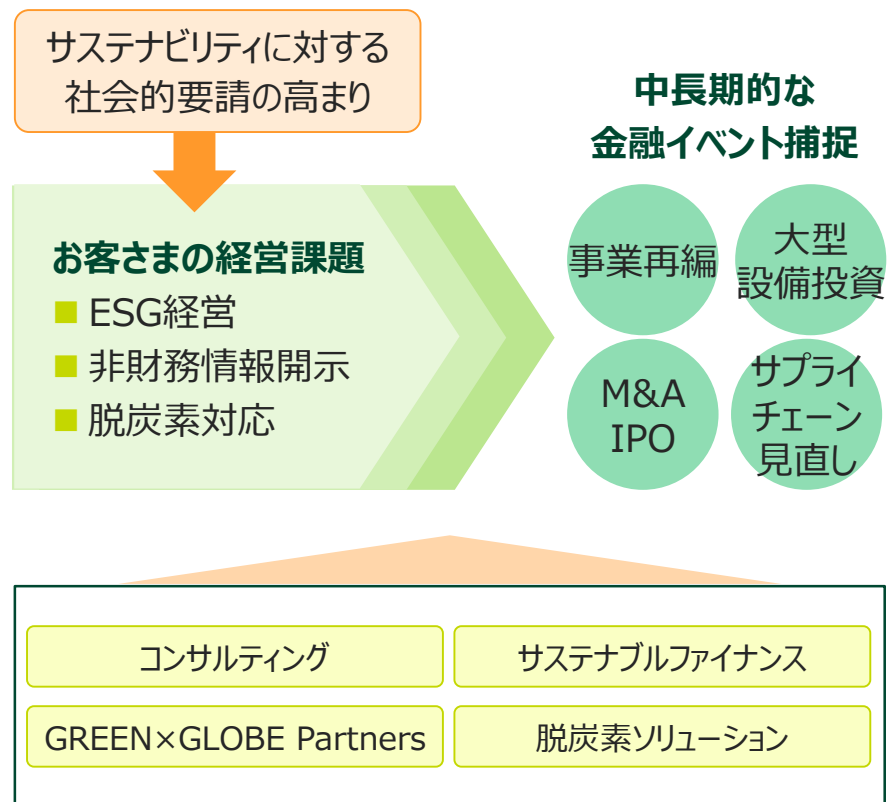
3. 重点戦略 ②法人のお客さま向けビジネス

従来のビジネスに加え、デジタル化やサステナビリティなど新たなニーズへの取組を加速

法人向けデジタルプラットフォーム



サステナブルビジネス



3. 重点戦略 ③海外ビジネス

インドネシアに加え、ターゲットとしていたインド・ベトナム・フィリピンの金融機関への出資を決定

インド



(※2021年7月発表)

ベトナム



(※2021年4月発表)



フィリピン

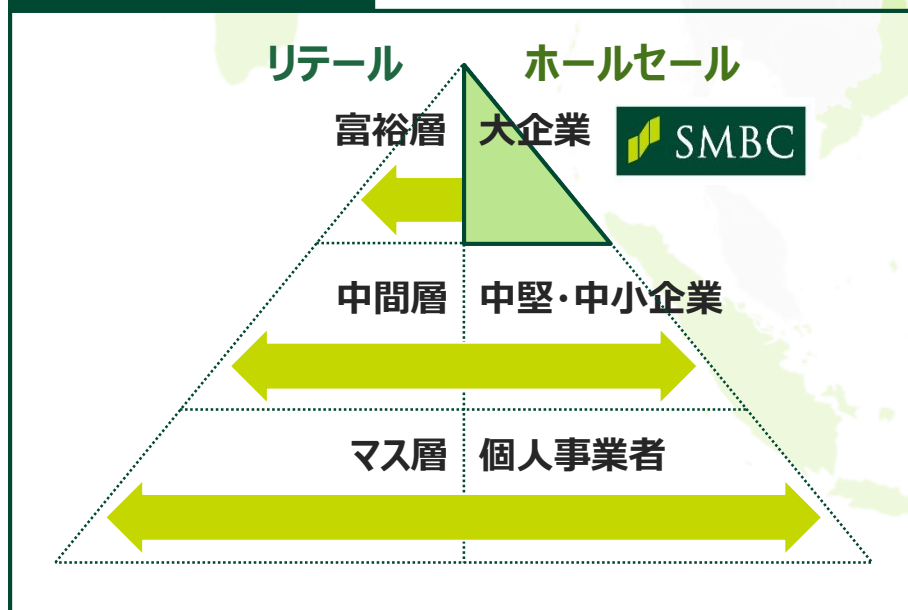


(※2021年6月発表)

インドネシア



アジア戦略のねらい



3. 重点戦略 ④新規ビジネスへの取組

SMBCエルダープログラム

エルダー
コンシェルジュ



SMBC



提携・付帯サービス



定額
自動送金



リバース
モーゲージ



貸金庫



資産承継



遺言信託



贈与

ゆとりの
生活サポート

一生涯の
安心サポート

次世代への
安心サポート



家事代行



旅行



ホーム
セキュリティ



介護施設



健康相談



終活

広告ビジネスへの参入

<イメージ>

SMBCデジタルマーケティング

金融データによる
パーソナルなニーズの分析

定年退職

- 年齢
- 退職金等



旅行好き

- 旅費決済実績
- 地方のATM利用

広告主



旅行会社



広告配信
シニア向け
旅行プラン



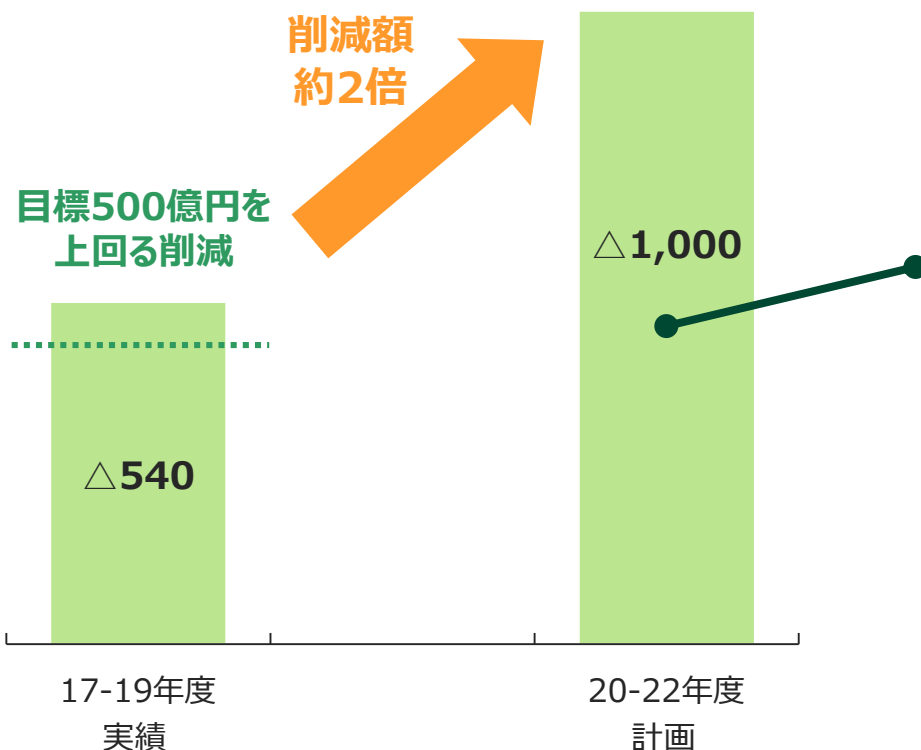
4. コスト削減への取組

中期経営計画（20-22年度）の3年間で、1,000億円のコスト削減を目指す

（上段：目標、下段：20年度実績）

コスト削減計画

（億円）



① 国内のビジネスモデル改革

△500億円
（△210億）

- リテールビジネスモデル改革
- 国内法人の戦力再配置
- 本部人員△3割削減

② リテール店舗改革

△250億円
（△70億）

- 個人コンサルティングに特化した軽量店舗の増加
計438拠点

フルサービス店舗

軽量店舗（21）

フルサービス店舗

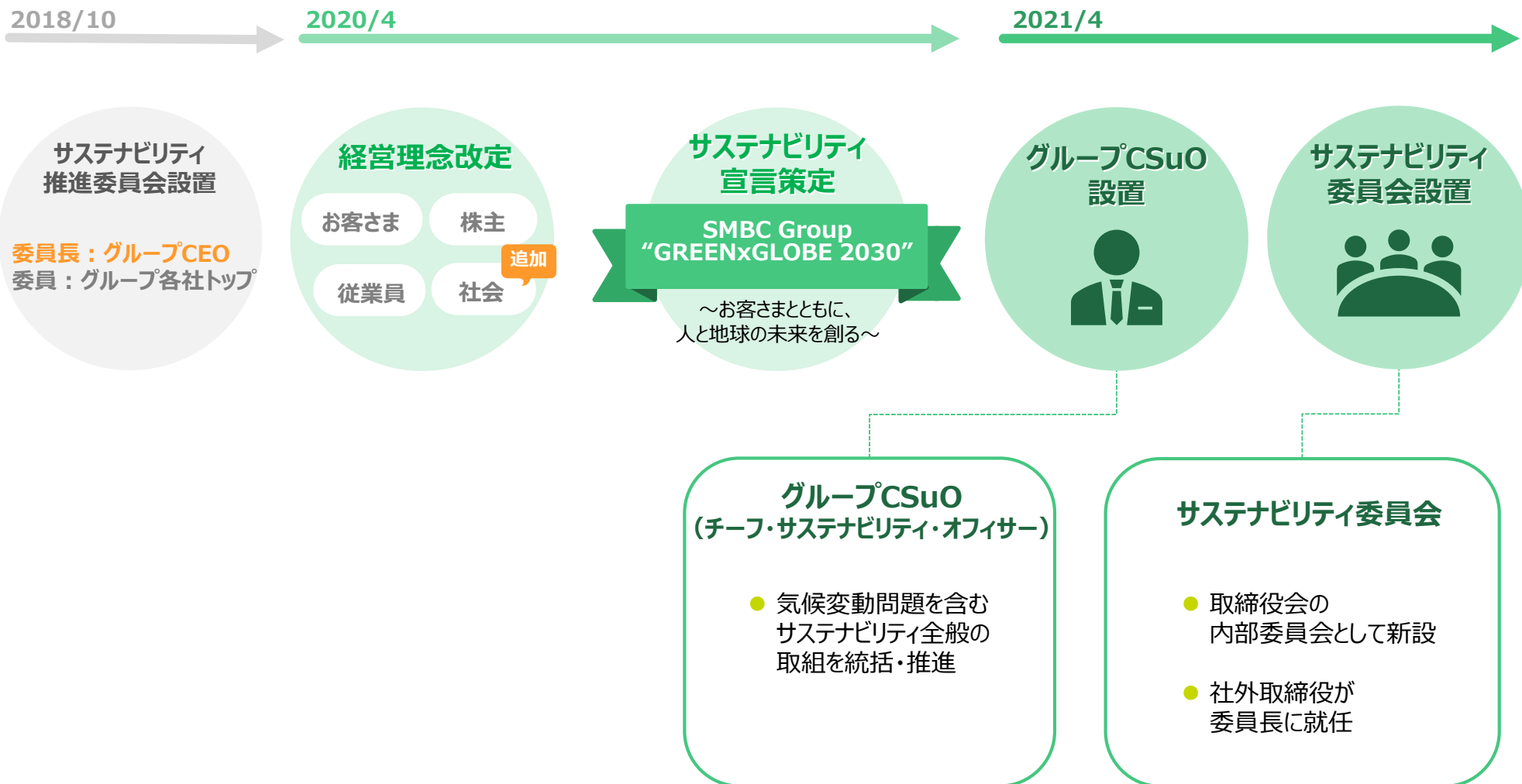
軽量店舗（300）

③ グループベースの業務集約

△250億円
（△70億）

- 三井住友カード・SMBCコンシューマーファイナンスの
豊洲移転・本部機能一体化
- アセットマネジメント事業の統合効果
- データセンターや基盤システム共通化

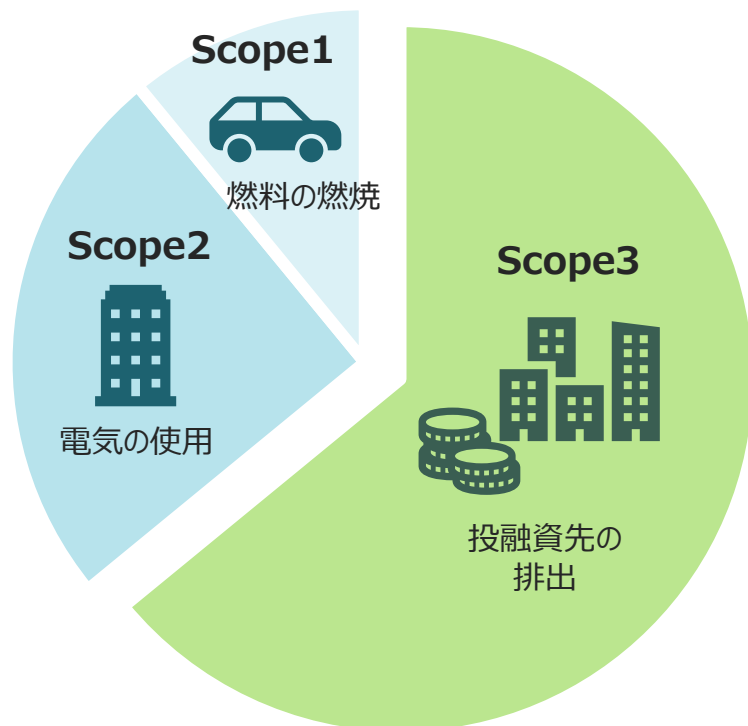
5. サステナビリティ実現に向けた取組 ①経営体制の確立



5. サステナビリティ実現に向けた取組 ②温室効果ガス排出削減

2030年までに自社の排出する温室効果ガス排出量（Scope1,2）、
2050年までに投融資先の排出する温室効果ガス排出量（Scope3）の実質ゼロを実現

金融機関における温室効果ガス排出とは

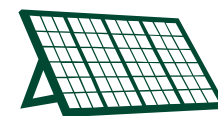


温室効果ガス排出量削減目標



実現に向けた取組

- 営業車のEV車への切り替え
- オフィスの使用電力を再エネにより調達



石炭火力発電所向け融資方針

石炭火力発電所の新設および
拡張案件への支援は行いません。

5. サステナビリティ実現に向けた取組 ③ 金融機関が担う役割

お客さまのサポート

地球規模の気候変動問題
(気候変動による災害、食料問題、難民問題)

脱炭素へのプレッシャー

SMBCグループの投融資先

脱炭素を
実現した企業

企業価値向上

脱炭素化
できない企業

企業価値下落

SMBCグループ

お客さまの脱炭素への移行を支援

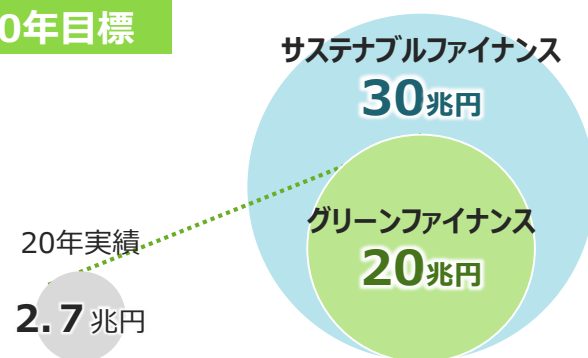
- コンサルティング
- ファイナンス
- リスクの計測
- 情報提供

GREEN×GLOBE Partners

環境・社会課題解決の「意識」と「機会」を流通させる

サステナブルファイナンス

2030年目標



プロジェクトファイナンスの業界誌（PFI誌）から、
2020年の再エネの取組み等が評価され、
6度目の『**PF Global Bank of the Year**』
を受賞



IV. 株主還元強化



1. 資本政策の基本方針

健全性確保、株主還元強化、成長投資をバランスよく実現

株主還元は、配当を基本とするが、健全性確保を前提に、自己株取得も機動的に実施



2. 株主還元

配当は累進的、すなわち「減配せず、配当維持もしくは増配」する方針

コロナ影響による先行き不透明な環境下でも、2020年度は配当維持・2021年度は増配を見込む

	20年度 (実績)	前年比	21年度 (予想)
1株当たり配当	190円	±0円	200円
配当性向	51%	+14%	46%
自己株取得	実施せず	—	5月は実施判断 見送り
親会社 株主純利益	5,128億円	▲1,911億円	6,000億円

配当利回り*1 5.0%

*1 2021年9月10日株価および配当予想で算出

最後に：SMBCグループの魅力



1.

資本の健全性の高さ



2.

5%を超える配当利回り



3.

成長力の高さ

V. ご案内



当社のウェブサイト

当社ウェブサイト、個人投資家の皆さまに向けたコンテンツを掲載



最初に、こちらをクリック

株主・投資家の皆さまへ

個人投資家の皆さまへ

SMBCグループの特長・取組を
分かりやすくご説明しています



SMBC GROUP REPORT 2021

経営陣からのメッセージ等最近の取組をご説明しています



ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2020年度 優良企業



個人投資家向け情報提供部門で
全業種の中から
優良企業に選定されました

ディスクロージャー
2020年度 優良企業

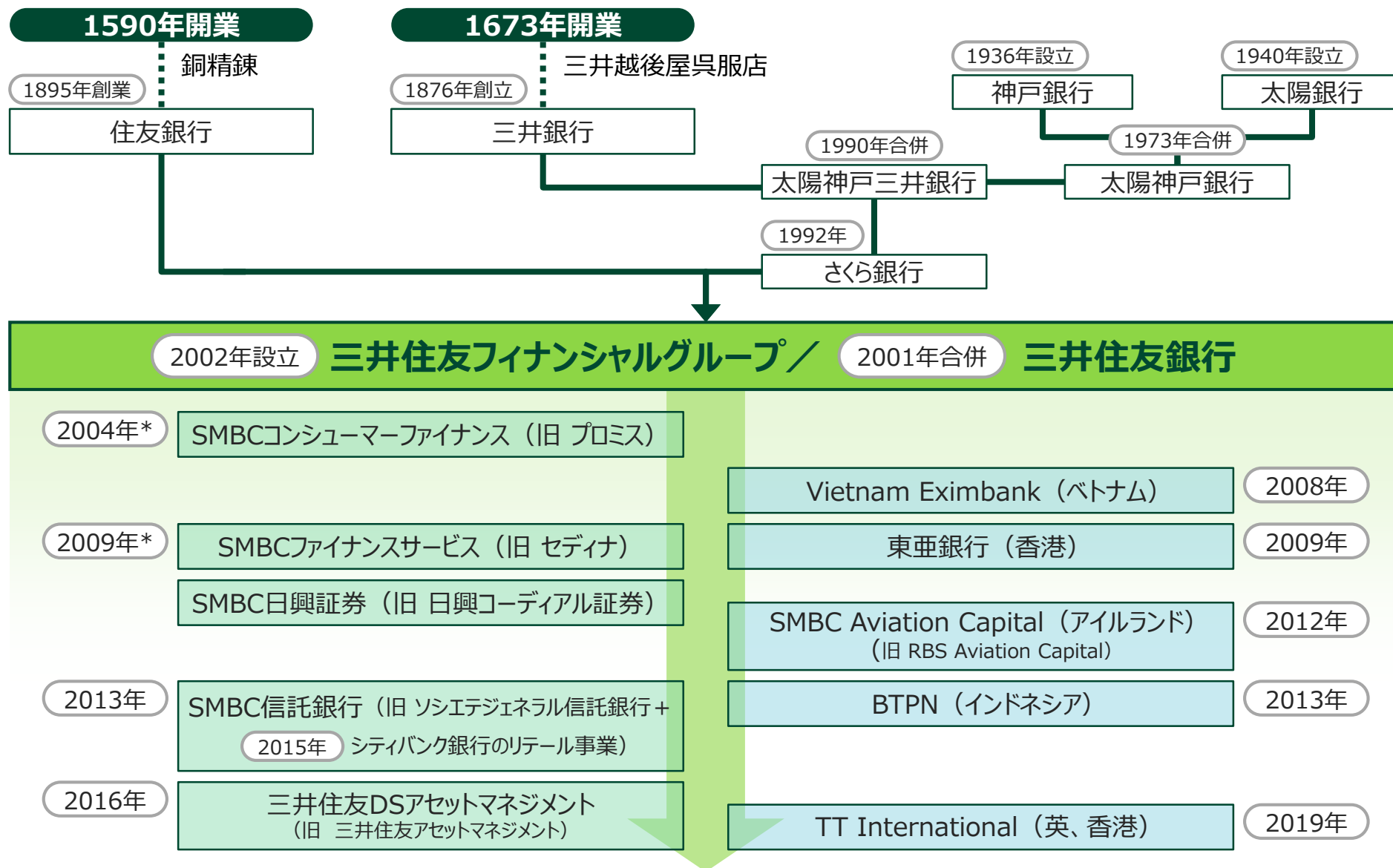


銀行部門では、2年連続1位

ご参考資料



SMBCグループの沿革



決算の概要

連結P/L

(億円)	20年度	前年 同期比	21年度 目標
連結粗利益	28,062	+376	
営業経費	▲17,471	▲75	
持分法投資損益	250	▲311	
連結業務純益	10,840	▲10	11,200
与信関係費用	▲3,605	▲1,899	▲3,000
株式等損益	926	+121	
その他	▲1,050	▲422	
経常利益	7,110	▲2,210	8,800
親会社株主純利益	5,128	▲1,911	6,000

主要グループ会社

(億円)	SMBC	SMBC日興 ^{*1}	SMCC
業務粗利益	14,817 +697	4,245 +636	3,856 ▲345
経費	▲8,165 ▲84	▲3,078 ▲27	▲3,173 △108
業務純益	6,652 +612	1,167 +609	687 ▲236
当期純利益	3,380 +207	926 +480	358 ▲24

	SMBCCF	SMBC信託	三井住友DS 50%
業務粗利益	2,597 ▲147	402 ▲92	341 ▲10
経費	▲1,106 △33	▲439 △46	▲323 ▲3
業務純益	1,491 ▲114	▲37 ▲46	18 ▲13
当期純利益	541 ▲360	▲85 +242	▲280 ▲290

(持分法適用)

	SMFL ^{*2} 50%
業務粗利益	1,768 +34
経費	▲857 ▲10
業務純益	952 +37
当期純利益	336 ▲276

(左：20年度実績、右：前年比)

*1 SMBC日興の海外持分法適用関連会社（SMFGの連結子会社）の利益を含む内部管理ベース

*2 内部管理ベース

バランスシート・1株あたり情報

連結B/S (2021/6月末)

(兆円)

- 日銀当座預金残高 (SMBC) 58.4兆円

(その他有価証券)

- うち株式 3.6兆円
- うち国債 13.9兆円
- うち外国債券 11.7兆円

預貸率 54.7%

総資産 240.1	
現預金 72.7	預金 含む 譲渡性預金 154.1
貸出金 84.2	
有価証券 35.9	その他負債 74.0
その他資産 47.3	純資産 12.0

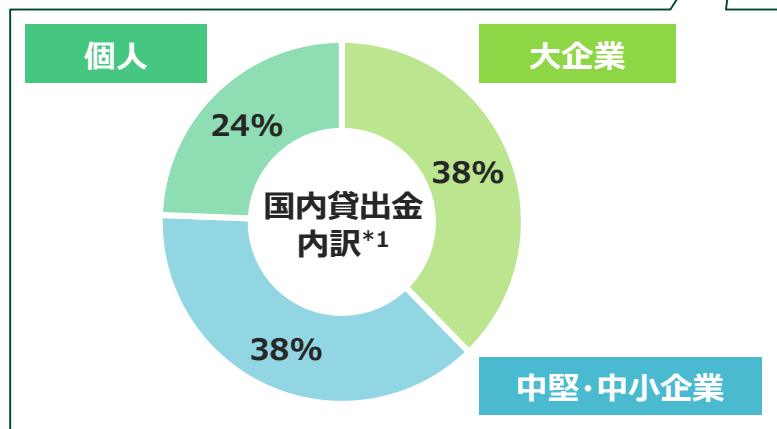
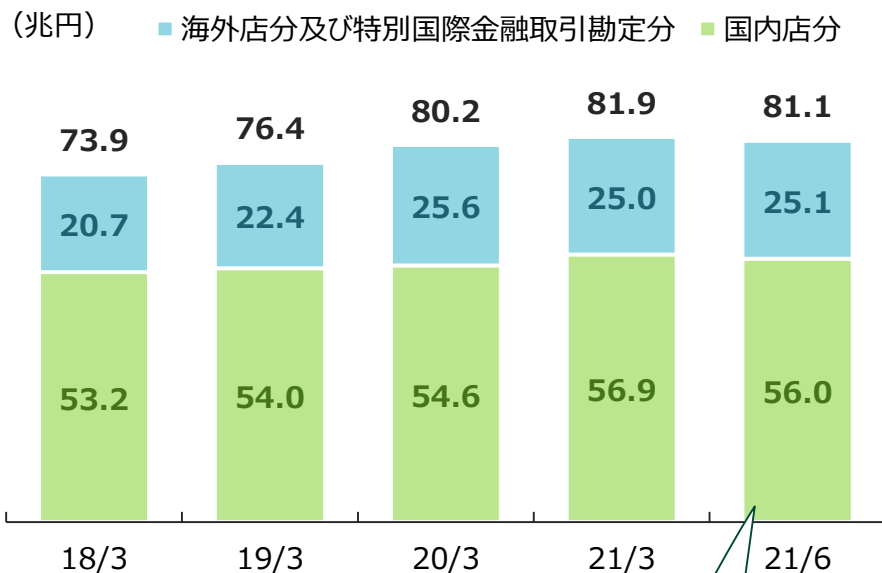
1株あたり情報

	20年度 実績	前年比	21年度 予想
当期純利益	374.26円	▲137.61円	437.82円
配当	190円	± 0円	200円

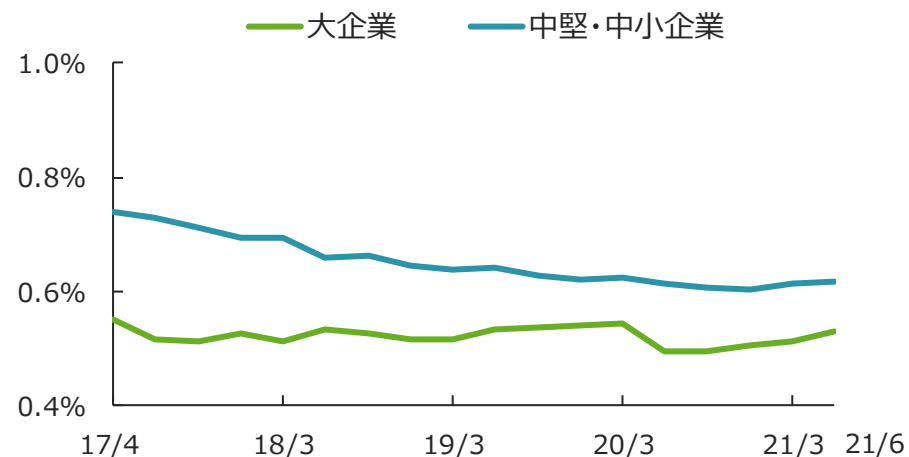
	21/3月末	20/3月末比
純資産	8,629.73円	+802.23円

貸出金

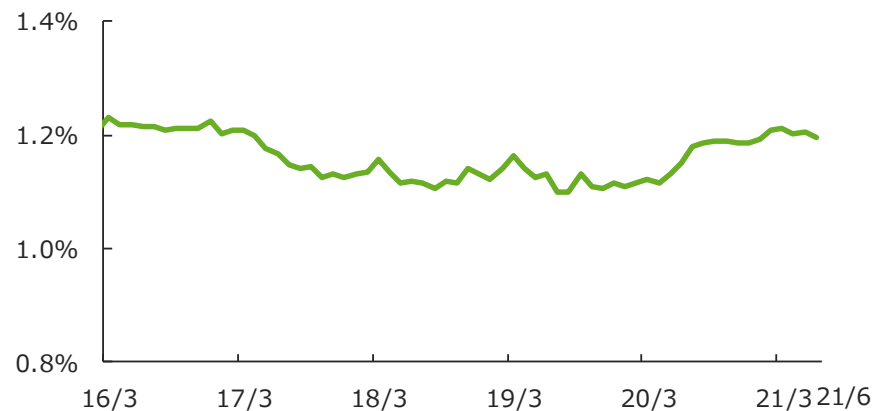
貸出金残高（SMBC単体）



国内法人向け貸出金スプレッド（SMBC単体）^{*1,2}



海外貸出金スプレッド^{*1,3}

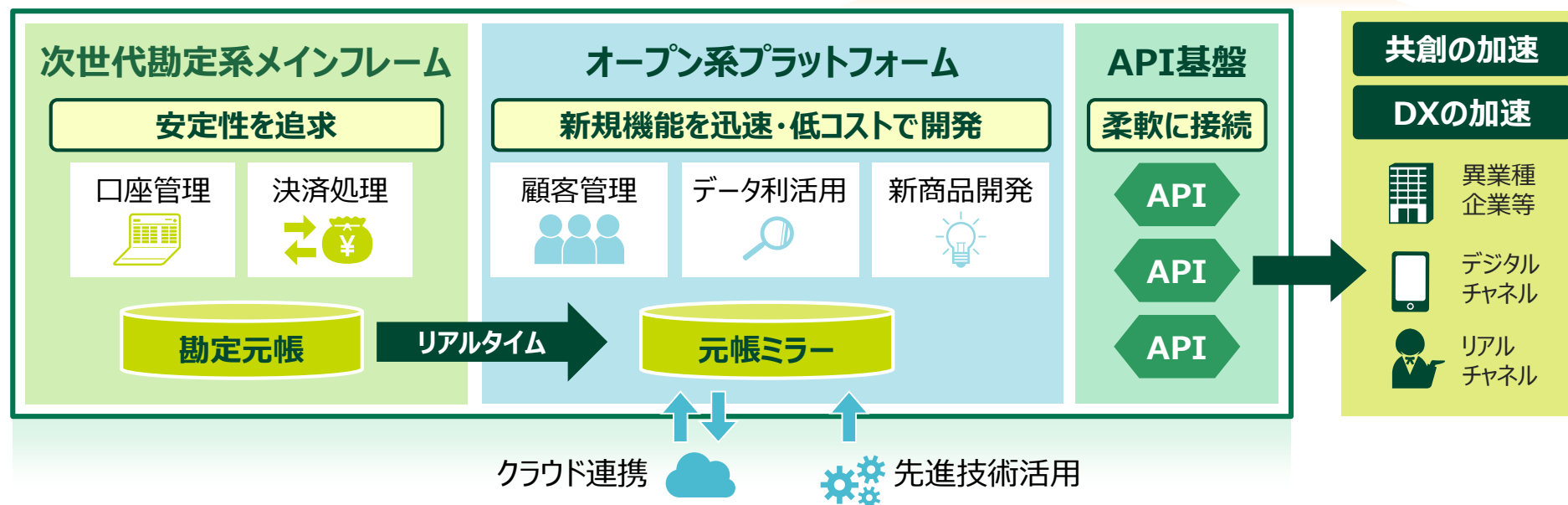


次世代勘定系システムの開発

デジタルトランスフォーメーション（DX）を支える次世代勘定系システムの開発に着手

1994	2002	2021-25
4次オンライン化	システム統合	次世代勘定系システム 総投資：500億円
- オンライン処理24時間化 - アプリケーション部品化	旧さくら・住友銀行の勘定系システム統合	- オンラインサービスの完全無停止化 - グループベースの統合顧客管理 - グローバル決済の即時化・時限延長 - 全勘定系データのリアルタイム分析

勘定系の安定性を向上しつつ、環境変化に迅速・柔軟に対応可能なアーキテクチャへ刷新



外部からの評価

外部格付

	SMFG		SMBC	
	(長期)	(短期)	(長期)	(短期)
Moody's	A1	P-1	A1	P-1
S&P	A-	—	A	A-1
Fitch	A	F1	A	F1
格付投資情報センター (R&I)	A+	—	AA-	a-1+
日本格付研究所 (JCR)	AA-	—	AA	J-1+

ESGインデックスへの組入れ



外部評価



株価推移





三井住友フィナンシャルグループ



本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。